

各 位

2015 年 CEO 年頭所感 要旨

2015 年 1 月 5 日

オリックス株式会社
取締役兼代表執行役社長・グループ CEO
井上 亮

<本件に関するお問い合わせ先>
グループ広報部 堀井・柴田 TEL : 03-3435-3167

年頭所感要旨（オリックスグループ CEO 井上 亮）

～常に変化を模索し、「グッドリスク」を追求～

【金融業界を取り巻く環境】

昨年は、米国が量的金融緩和政策の終了を宣言したこと、また、日本や欧州では新たな金融緩和策を打ち出したことなどが原因で、市場が混乱している状況が続いた年であった。日本経済に関しては、設備投資の回復や企業業績の最高益更新、原油価格の下落といったプラス要因があるものの、7-9月期 GDP がマイナスとなり消費税率の引き上げ延期、日本国債の格下げなどの懸念点もあり、市場は不安定な状況が続いている。世界に目を向けても、ロシア危機再来の予感、地政学的リスクの拡大、新興の産油国の不安定化、中国経済の減速など、それほど安心して企業活動ができるとはいえない状況である。

【成長を支えるイノベーション】

オリックスは、50周年を迎えた2015年3月期は、過去最高益となる当期純利益目標を掲げており、これまで順調に推移している。国内外の経済環境は、不安定、不均一が見られるが、オリックスの事業基盤、財務基盤はかつてないほど強固である。オリックスにとっては、引き続き事業拡大のチャンスとなるビジネス環境が続く。既存のビジネスモデルに頼ることなく、先の成長を支える新機軸の構築、イノベーションの深化・継続が重要である。常に変化を模索し、ひたすら「グッドリスク」を追求していくのがオリックスであり、ゆえに「オリックス」というビジネスモデルに完成形はない。

【変わらない企業の存在意義】

完成形を持たずに変化を続けるオリックスの事業活動において、変わらずに大切なことは「新しい価値を創造して、それを商品・サービスとしてお客さまに提供していくこと」である。企業はお客さまに必要とされ、評価される価値を提供することに存在意義がある。そのような事業活動を通じて、社会にも経済にも貢献することができ、その対価として収益を得られる。事業環境やお客さまのニーズの変化をうまく捉え、より高い価値を提供することを目指して、オリックスは変化を続けていく。

【一人ひとりの結集が「グループ力」】

「オリックス」というビジネスモデルに最も重要な要素や特長は「グループ力」である。グループ力の元をたどると社員一人ひとりに行き着く。一人ひとりが柔軟性を持ち、臨機応変に対応できる知識を身につけ、チャレンジ精神を持ち続けることが必要である。現状に満足することなく、自己改革を続けていただきたい。社会から評価され、働き甲斐を感じられる企業となることを目指して努力を重ねていきたい。

以上